

平成29年度福岡市小図研 6月定例会記録①

文責：安部春伊（和白東小）

6月定例会の内容

日時：平成29年6月17日（土）

13:30～16:30

場所：福岡市立三筑小学校図工室

内容：教材研修

低学年「ひみつのたまご」

発展学習「ひみつのたね」

高学年「じつとみつめると」

授業研究部会①

参加者：43名

→ 行きつ 戻りつ，失敗をしながら

（特に低学年は大切です）

- ④ 活動途中で振り返ったり，完成作品を子どもどうしが互いに見合ったり，交流したりしながら鑑賞することで新たな意欲が生まれる。また，発想が広がることで，活動に満足したり，表現が豊かになったりする。

2. 教師の支援

① 題材を設定し，提案する。

- ・子どもの実態や発達段階に合っているか？
- ・わくわくする題材か？



導入時に、絵本を読み聞かせ、「みんなのたまごはどんなたまご？」と問いかけわくわく感を持たせてもよい。



② 材料や用具を準備し，学習環境を整える。

- ・事前に予告して材料を集める
→ キットでは，発想が固定するため，材料を集めさせた方がよい
- ・活動の場は？（安全性や表現の広がりを考えて）
→ 机がある方がよいのかないほうがよいのか等を考え，場を設定する。

③ 発想⇄構想⇄表現⇄鑑賞

- ・製作途中も鑑賞させ，発想・構想・表現をいったりきたりする。
- ・困った時にどんなアドバイスができるのか
→ いくつか提示して自己選択させる。

第2学年題材「こんな花があったら」

講師：福岡市立長住小学校 沼瀬真寿美先生

★題材指導の考え方と指導の実際★



1. 図画工作科の描画題材とは

題材の世界に浸ることで，子どもがもっている表現欲求を存分に発揮できる。

→ 描かせるではなく「描きたい！」を引き出す。

●●題材の一般的な指導課程●●

- ① 自分なりの表現主題を見つける。
- ② 材料をもとに試行錯誤しながらかいたりつくったりする。

3. 指導の実際

「こんな花があったら」

《題材のねらい》

本題材は、子ども達の身の周りの草花との関わりの中で驚いたり発見したりしたことや、紙粘土でのたねづくりを通して想像を膨らませ、「こんな花があったらいいな」と思い付いたり、考えたりしながら、形や色などを工夫して楽しく絵に表すことをねらいとしている。

教科書の題材名は「ふしぎなたまご」である。特別支援学級の児童の実態から、今回は教科書題材「ふしぎなたまご」を「こんな花があったら」に変えて指導している。

《学習の流れ》

第1時：花の写真を見たり、お話をきいたりして自分なりの花をかいてみたいという気持ちをもつ。(発想・構想)



いろいろな形の花を見せて、想像をふくらませる。
(例) カンガルーの袋みたい

○紙粘土でつくった種に彩色する。

○色は3色に限定。

○どんな種をまくと、自分なりの素敵な花が咲かせられるか、子どもの思いを引き出す。

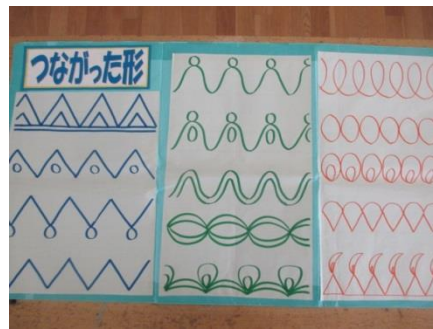


〔参加者作 カラフルたまご〕

第2・3時：「こんな花があったら楽しいな」という思いをふくらませながら花の絵をかく。(表現)



植木鉢（色画用紙）を画用紙に貼る。植木鉢の中に花の種を入れる。
*参加者も体験



いろいろな線がかかかれている資料を用意し、線の組合せによって楽しい形の花ができることを知らせる。

第4・5時：自分の思いがよく表れるように彩色する。(表現)



つくった種の思いに合わせて彩色します。



「似た色の組み合わせ」
「優しい色の組み合わせ」
「強い色の組み合わせ」
の資料を提示する。

第6時：作品ラベルには、花の名前を書く。

→いつ頃咲く？や育て方はどう？などの自分の思いが表れるようにする。

絵を見せ合いながら、工夫したことや友達に見てほしいところなどを伝え合う。

